

産業の發達は道路改良に比例す

道路改良會
評議員

藤原俊雄

交通機關は過去數十年の間、一に鐵道の建設に依つて完成するものと考へられて、道路の改築に費用を投ずるが如きは時代錯誤の觀を以て取扱はれて居つたのであるが、千九百年に自動車が発明せられ爾來之が急速なる發達に伴つて、茲に道路といふものが重要な交通機關として注目されるに至つた。併しながら其の當初に在つては、未だ所謂鐵道熱に浮かされて居つて、道路の改造の爲に巨費を投ずるが如きことは世の理解を求めることが出来なかつたのである。彼の米國に於てすら、道路改良といふ事に意を用ひ始めたのは、自動車の發明より十年を経過した後である。

今日歐米先進國に於て苟も自動車の實用價値を認めて居る國に於ては、鐵道よりも道路に依る自動車の利用の方が輕便であり、産業開發の上に甚だ必要であるといふことは齎しく確認せられて居る。故に米國の如きは千九百十年以來道路の改良に最も力を入れ、年々三億弗乃至七億弗の金を投じて今日まで道路の完成の爲に費したる總額は約四十億弗に達するのである。

貨物の輸送に當つて鐵道輸送よりも自動車運搬の方が迅速であり、且つ貨物に損傷を與ふることの少いといふ利益は、道路運搬の經濟的に重視される所以である。例へば市街より百五十哩離れて居る田園から農産物の如きを運ぶのに、鐵道に依るとすれば、先づ收獲地より停車場までは自動車に依つて持出し、更に汽車に積込んで目的地たる市街地に輸送するのであるが、米國の如き、汽車の速力の速い所でも、貨物車に在つては五六時間を要し、且つ到着地の停車場から市場まで運ぶには、更に自動車に積替へなければならぬ、其の爲に農産物中殊に生物の如きは損傷を與へられる事が尠くない。而して汽車の積卸し、再運搬の手數等を計算すると、どうしても二十四時間以上を要するのである。若し之を更に敏速にやらんとすれば、非常に經費が嵩むことになる。之を初めから自動車に依つて收獲地より直ちに市場に運ぶとすれば、百五十哩の運搬は三時間半乃至四時間を以て、優に目的地に運び得る譯である。而も其の運賃は遙に安く、青物の如きは損傷を受けることが殆どないといふ利益がある。又家具の運搬の如きも然りであつて、米國各州に跨つて家具の販賣をして居る商人の如きは、殆ど皆自動車を利用して居る。現に余は往年、齡三十五歳に達して未だ會つて汽車に乗つた事の無いといふ家具商に會つたことがある。

斯の如く産業の發達に最も重大なる關係ある自動車が適當に利用さるべき道路の普及しないと云ふことは、國家經濟上の大損失であると謂はなければならぬ。申すまでもなく今日の文明は交通

機關の完成に依つて發達して居るものである。彼のコロンブスが米大陸を發見して以來、交通問題に對して世界的刺戟を與へ、蒸氣機關の發明が汽車、汽船に應用せられて、一時交通發達の唯一の機關として産業助長の上に貢獻し來つたのであるが、今や將に一方に於ては電氣萬能の文明を招來しつゝあると共に、一方に於てはガソリン・エンジンの時代になりつゝあるといふ事を考へる時、道路の改善ほど緊要なる問題は無いのである。

最近動もすれば勞働賃銀の最も安い我國に於て、猶ほ勞働賃銀の高率なるが爲に生産費が償はな
いといふ議論を耳にするのであるが、是は思はざるの甚しきものである。何となれば物資の運搬方
法或は多くの中間商人の手を経る所の舊式の取引方法を改善することを講究せずして、まのあたり
支拂ふ所の勞働賃銀のみを値切らんとすることは、國民の生活を益々低下せしむる所以である。此
の意味よりするも、産業上最も大なる科目たる所の運搬費用の如きものを低減する方法を講じない
といふことは、我國産業界の一大過失であると謂ふも敢て過言ではなからうと思ふ。

そののみならず産業又は貿易に従事する人々が兎もすれば俗論に惑はされて、或は日本の如き富
源の少い國では大事業は出來ないとか、或は米國は戦争成金であるなどといふやうな近眼者流の議
論が金科玉條の如く重んぜられるといふことが、是が我國の産業の發展を根本的に妨礙して居るも
のである。假に米國の隆盛が豊富なる資源と、戦争成金たるに在るとしても、若し今日の米國の社會

から、新時代の發明たる自動車を取除き、又其の自動車の發達を助長すべき道路を破壊してしまつたならば、到底今日の米國産業の盛大を見ることは出來ないであらうと思ふ。

米國の産業が今日の發達を見たのは、勿論種々なる原因があるに相違ないけれども、其の最大原因の一として考ふべきものは、世界の八割七分を占むる所の自動車を用ひ、世界の八割三分を占むる所の自動車を製作して居るといふことが、看過すべからざる産業革新の一大原因であつて、今日の富と隆盛を成す所以である。其の自動車を今日の如く發達せしめた所の原因は、勿論其の製造、販賣、發明、勞働組織等に於ける科學の應用の盛んなることにあるけれども、一面に於て之を應用する所の道路の改良に數十億の巨資を投ずるといふ彼の勇氣が無かつたならば、如何なる發明があつても門を閉して人を招くの類に終つてしまふのである。

宜なる哉、米國に於ては道路が實に能く自動車に依つて利用せられて居る。各州に通ずる州の公道（ハイウエー）の如きは殆ど自動車の専用道路であつて、人の歩行する道路ではないといふ感を起さしめるほど、ハイウエーには自動車は走つて居るけれども、歩行して居る人は一人も見ることが出來ない實況である。是等の事實は如何に米國民の道路の實用に對する觀念が、我國民のそれと相違して居るかといふことを窺ふに足ると共に、それと比例して産業界の趣も亦彼我大に異なるものあることを看取することが出來るのである。

今や我が政府も茲に見る所があつて、全國に亘る産業道路の改良の必要を認められ、茲に十箇年に亘つて總額六千八百八十萬圓の國費を補助するの計畫を立て、先づ昭和四年度の豫算に於て二百萬圓を計上して、府縣道中の主要なるものを産業道路として之が改良を助成する計畫が成立つたといふことは眞に産業助成の意味に於て慶ぶべき事であつて、恐くは最近の我國に於ける産業政策上の一大快事であると謂はなければならぬ。

嘗て米國の鐵道王ヒル氏が來朝したる時、我國の惡道路に對して警告を發して、此の道路の悪い事は日本の産業上に非常な損失を與へて居る、即ち其の一日の損失は一人に付て六錢に當り、日本全體に於ては日々三十六萬圓の損失を日本の産業界に與へつゝあると言つた、是が一つの刺戟となつて道路改良會を組織せられるに至つた一原因であると聞いて居るが、爾來十數年道路改良會が調査に宣傳に不斷の努力を續け來つた事が着々として報ひられ、今や産業道路改良の曙光を見るに至つたことは我國産業界の爲に慶賀に堪へぬ次第である。(完)